

## 地域連絡協議会 報告

地域担当講師 櫻木美穂子

### 地域連絡協議会の目的

福岡県のノーリフティングケア普及促進事業に参加していない介護・福祉施設にノーリフティングケアを普及するための活動を行う。

そして福岡県内の介護現場の腰痛をなくし安心安全な施設にしていく。

#### 今年度の目標

- ① 本事業に参加している施設同士の交流を深め、施設間の連携を図る。
- ② 地域で普及するための組織作りをする。



# 年間計画スケジュール

(6月)

- ・事前打ち合わせ会を実施。各地区のリーダー施設の管理者と4人の講師が集まり連絡協議会としての目的を決定する。

(8月) 第1回地域連絡協議会開催 (4地域)

- ・リーダー施設と担当講師は、各施設に対して、目的共有を行う。  
また、各地域の次回の連絡協議会の内容を決定

(10月) 第2回地域連絡協議会開催 (4地域)

- ・8月に計画した内容について施設間で情報交換。

(1月) 第3回地域連絡協議会開催 (4地域)

- ・10月に立案した計画に即した施設の情報交換と次年度の計画立案
- ・地域ごとの1年間の活動報告を行い来年度の体制を決定する。

(2月) リーダー会議開催 (予定)

## 今年度の活動

### 筑豊・筑後・福岡・北九州の4地域に分かれてそれぞれ地域連絡協議会開催

- ・それぞれの地域のアドバイザー施設が中心となり会を運営した。
- ・それぞれの地域の担当講師とNPOがサポートとして参加した。

#### 内容

- 1回目：各地域の施設紹介と現状について情報交換するとともに今後の会の内容について話し合う。
- 2回目：地域ごとに課題を決め、その課題についてそれぞれの施設の状況や他の施設に聞きたいことを出し合い情報交換を行う。
- 3回目：2回目同様地域ごとに課題を設定し、その課題について情報交換を行う。  
来年度に向けて地域連絡協議会の組織体制と活動内容について話し合う。

# 第1回地域連絡協議会

(8月2日・4日)

## 筑豊地区

地域の現状を共有するとともに、施設の課題を出し合った。

その中で人手不足の現状が各施設から報告された。

次回ケアの中で特に負担が大きく福祉用具の導入が遅れる入浴について各施設の現状を出し合い先行施設のアドバイスをだしあうことになった



## 筑後地区

老健施設、小規模多機能など新規の分野から参加があり多彩な情報交換となった。またコロナ禍で地域活動が制限されていること、人手不足の現状が話された。

次回ケアの中で課題になっていることや各施設の現状を出し合い先行施設や他施設のアドバイスをすることになった



# 第1回地域連絡協議会

(8月10日・12日)

## 福岡地区

地域の高齢化の状況やコロナ禍のために施設内のノーリフティングケアの取り組みが停滞している現状を共有するとともに、施設の問題点について話をした。

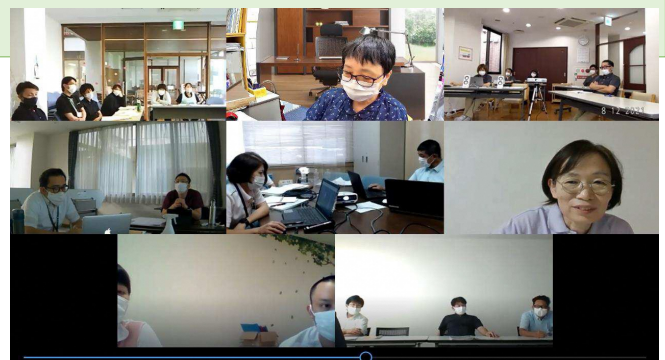
地域の取り組みについてSNSなどで情報交換していればとの意見が出た。



## 北九州地区

先輩施設から地域への取り組みの状況などが共有された。しかしコロナ対応のため苦慮している状況も知ることができた。

そこでまず本事業に参加している施設同士で情報共有することになった。





# 第2回地域連絡協議会

(10月4日・6日)

## 筑豊地区

入浴介助の場面の現状と課題を出し合い、施設同士で意見やアドバイスをを行った。どの施設の発表もとても内容が濃く深い意見交換を行うことができた。

そこで次回は排泄のケアについて課題や質問を出し合うことにした。

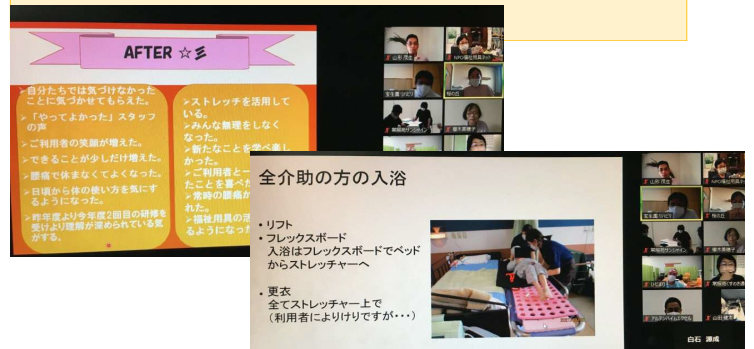


## 筑後地区

事前に施設の課題を資料にまとめて発表した。

その中で福祉用具の導入状況や、ノーリフティングケアの取り組みの中での悩みなどが話された。

またいつでも連絡を取れる場があるといいという意見が聞かれた。



# 第2回地域連絡協議会

(10月7日・13日)

## 福岡地区

施設ごとの現在のケアの状況とその課題や問題点がそれぞれに施設から出され、入浴・排泄場面での課題が多く出された。そこで先輩施設から福祉用具の活用やケアの工夫など施設同士の意見交換が行われた。



## 北九州地区

各施設からノーリフティングケアの導入における福祉用具の選定やケア場面の具体的な課題が出され、それに対し他施設が自施設の工夫や基本的な考え方などが話された。2期生の施設は先輩施設からのアドバイスにとっても刺激を受けていた。



# 第3回地域連絡協議会

(1月18日・19日)

## 筑豊地区

今回は負担の大きいケアとして排泄ケアの状況を施設ごとに発表しそれぞれに意見換やアドバイスをを行った。排泄場面は施設ごとに環境が大きく異なり様々な意見が聞かれ実りの多い検討会となった。

## 筑後地区

各施設の現状や課題をそれぞれが発表し、それぞれにみんなで意見を出し合って解決策を検討した。

また地域連絡協議会については来年度の活動を話し合う場として施設間連絡用にSlackを活用することになった。



# 第3回地域連絡協議会

(1月20日・21日)

## 福岡地区

各施設「ノーリフティングケアの施設への浸透、定着、モチベーションの現状」「変革・活動で生じる問題」についてそれぞれの施設で話し合った内容を持ち寄り意見交換を行った。

その後地域連絡協議会の施設間連絡用にSlackを利用することを提案された。

## 北九州地区

一部の施設から他施設の状況を聞きたいと意見が上がっていた入浴場面を各施設から発表してもらい質問など意見交換を行った。とても情報量の多い意見交換となった。

また各施設の地域への活動について、現コロナ禍の状況で自施設・法人内の浸透に取り組むこと、施設間の連絡ツール (Slack) の活用が提案された。



## まとめ 来年度への課題と抱負

- 本年度はコロナ禍もあり、なかなか地域の活動ができない状況であった。そこで現在参加している24施設（各地域6施設）間の連携を深めることとした。
- 各地域3回ずつの連絡協議会を開催し、ノーリフティングケア導入のための意見交換や情報共有を行ってきた。
- そこでまずは地域ごとに情報共有できる体制（連絡手段）を作ることになった。
- 来年度は施設間の連携を強め各地域ごとの地域活動の地盤づくりを行っていきたい。

